広済寺寺報

発行　浄土真宗本願寺派　福田山　廣済寺
〒933－0344　富山県高岡市笹川98　TEL(FAX)　0766－31－0096
E-Mail　info@kosaiji.net　ホームページ　https://kosaiji.net/

今号の内容

・前坊守の葬儀がお寺で勤まりました
・住職コラム
・千夏のきときと日記
・坊守のつれづれ日記

今号の法語

おかげさまの
いのち
おかげさまの
新年

法座のご案内

一月十五日(月)　午後二時より
十六日(火)　午前九時半より(午前のみ)
御正忌報恩講（於 広済寺広間）
※お勤め・法話共に、御堂ではなく、ストーブで暖かくした広間にて行います

毎年あっという間に迎え、あっという間に過ぎ去る年末年始。二〇二三年もいろんなことがありましたが、なんとか新年を迎えることができそうです。

「時の上に 新年も旧年もない 人の上に 新年があり旧年がある」という言葉があります。なるほど、時とは当たり前に流れていくものだけれど、人間はそこに新年旧年と節目をつけました。きっとそこには、また今年も迎えることができたというよろこびもあったのでしょう。

生きていればいろんなことに出遇っていきます。うれしいこと、つらいこと。しかしその度に、当たり前でなく、支えられた「いのち」であったことに気づかされます。

おかげさまの毎日です。新年の節目には、今年もまた迎えることができましたと手を合わせたいものです。

前坊守の葬儀がお寺で勤まりました

通夜の様子

十一月四日・五日に、広済寺第二十一世坊守（前坊守）廣浄院釋尼妙澪（俗名 福田澪子）の葬儀が勤まりました。

前坊守は十月三十日に行年九十九歳で往生しました。直前まで元気にしていたので突然のことでありましたが、ご門徒さんや地域の方々に支えられ、無事にお寺で葬儀を勤めることができました。

二十年前の前住職の葬儀の際は、本堂が修復中のため葬祭ホールが会場でした。よってお寺での寺族の葬儀は、前々坊守の葬儀以来、実に四十年ぶりのものでした。

当日はたくさんの方々にお参りいただき本当にありがとうございました。また葬儀に際して、過分な香典を頂戴し、深く深く御礼申し上げます。

多くの支えの中で広済寺は護持されてきました。これからも門徒・地域の皆さんのお寺であり続けるよう、寺族として励んでいきたいと思います。今後とも広済寺を宜しくお願い致します。

住職コラム

早や本年も師走を迎えましたが、先日はものすごい雪が降り一日で三〇～四〇センチの積雪となりました。早速ご門徒さんが駐車場の除雪をしてくださり、きれいになりました。毎年ながら有難く感謝しております。

そのような中、十二月二十四日早朝、一面雪で真っ白な新高岡駅を出発し京都へ法事に出勤いたしました。途中驚いたのは、北陸線敦賀駅を過ぎ長いトンネルを抜け琵琶湖に入った途端、今まで一面雪で覆われていた田んぼが、緑豊かに青々とまるで春を迎えているように暖かに輝いて見えたことです。その先の京都まで雪は全くありません。日本海側から長いトンネルを過ぎるとこんなに変化があるということにビックリしました。

日本の国土は狭くて小さいといわれるけれども、すごく変化もあって美しいところですよ。どのように受け取らさせていただくかたくさんヒントをいただいているように思います。

ありがとう。なまんだぶ。

合掌

千夏のきときと日記

坊守のつれづれ日記

今回の記事は前坊守のことばかりですが、私からも少し触れさせてください。

私と前坊守は二〇一五年に若院と結婚してから八年間のご縁ですが、私に「お寺の門徒さんや周りの人たちちゃ大事にせんなんがいよ」といつも言い聞かせてくれていました。

今回前坊守が往生し、お寺でお葬式をさせていただくことになりました。往生した知らせを知り、一緒に悲しみ、一緒にお葬式の準備、そして送り出してくださるご門徒さんや近所の方々の姿をみて、前坊守が私に伝えたかったことはこのことだったのかなと思っています。お葬式をさせていただくことにあたり、多くの方々が「何かすることがあったら言ってね」と言ってくださり、こんなにも有難いことだということを痛感いたしました。

前坊守とこの世との別れは大変寂しいことですが、周りに支えられ感謝する気持ちを改めて教えていただくことができました。これからも寺族の一員として、ご門徒さん、またご近所さんと共にお寺を支えていきたいと強く思います。

どうもありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします！

前坊守が九十九歳でお浄土へ往生しました。

数え年十九歳で前住職のもとに嫁ぎ、二十歳で私の母となり、満七十九年二カ月という間、共々にこのお寺で過ごさせてもらいました。

幼い頃より、私の言動が荒々しくなると母は「仏様の前に座ってみたら？」と言い、また私にとって良いことがあると「仏様に早速報告しようね」と常々言われたことが思い出されます。そしていつも陰になり日向になって私を見守ってくれ、お互いにいくつになっても母と子であり続けました。

先日三歳になる孫が「ひいばあちゃんは、なんなさん(仏様)になったけど、大きい声で呼んだら帰ってくるかな？」と言いました。私は「そうだね、いつも英惟(えい)ちゃんの背中におられて見ておられるよ」と、何気ない日常の会話の中で、お浄土の母からお念仏という贈りものをいただいています。

前坊守と孫と一緒に本堂にて

お知らせ

令和五年

除夜の鐘
十二月三十一日(日)
午後十一時四十五分より

令和六年

元旦会
一月一日(月)
午前五時より

御正忌報恩講
一月十五日(月)
午後二時より
十六日(火)
午前九時半より

御講師
砺波組　明覚寺
林　要昭　師

※月参りについて
一月一日・二日・三日の三日間はお休みさせていただきます(祥月命日は除く)。

除夜の鐘

12月31日(日)
午後11時45分～0時45分頃

※撞いている間も出入り自由です。
いつでもお越しください。
本堂におられる阿弥陀様にもお参りしましょう。

編集後記

二〇二四年はどんな年になるでしょうか？争いごとが終結する年にしていければいいですが、世界が目まぐるしく動いていることをつくづく痛感させられます。

さて、地元の話に移れば、いよいよ北陸新幹線の金沢～敦賀間開業が三月に迫ってきました。

振り返れば、金沢まで開業したのが二〇一五年。実にあれから九年です。当時は新幹線を見るだけでもウキウキしましたよね。新たに開業する福井県でもPRロゴを作って盛り上がっているようです。

これまでも関西方面へ行くときには北陸新幹線にお世話になっていたのですが、新高岡駅から乗継駅の金沢駅までは一〇分ちょっと。乗継時間を含めると新幹線の短縮効果は大変微妙だったのですが、これからは敦賀駅まで。九年越しにようやく新幹線の恩恵に与(あずか)れそうです(笑)